



「学園100周年記念館」⑥外観イメージパース

記念館は、若水キャンパス南側敷地内の愛名館、第2南館跡に建設され、五階建て延べ床面積約七千平方メートル。学園に係わる資料等を展示予定のメモリアルギャラリーのほか、吹奏楽部合奏室（兼記念ホール）、同部パート練習室、体育館、電気、機械等の実習エリアなどを設ける予定です。学園は建設に先立ち七月十八日、同所で地鎮祭を行いました。後藤淳理事長、後藤泰之学長ら学園役員、

学園は来年十一月の創立百周年を記念し記念式典のほか学園ゆかりの地、名古屋千種区の若水キャンパス内に「名古屋電気学園百周年記念館」（仮称）を建設するほか、大学八草キャンパスの整備・充実、学園各設置校の情報機器など教育・研究設備の整備・充実、奨学金制度の充実等の様々な記念事業を進めます。また、同事業の費用の一部に充てるため「記念募金」を広く募ることにし現在、募金活動を行っています。

来年の「学園創立百周年」へ向け 記念事業「記念館」建設など着手



愛知工業大学 愛知工業大学情報電子専門学校 愛知工業大学名電高校 愛知工業大学附属中学校

目次

大学の新体制	2
学会賞受賞等	3
世界大会出場	4
各設置校入学式	5
各校トピックス	6
クラブ等の活躍	7
愛名会だより	8

発行所
名古屋電気学園

〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
Tel (0565) 48-8177



地鎮祭で鍬入の儀を行う後藤淳理事長

幹部、建設関係者ら約四十人が出席。理事長が盛り土にクワを入れた後、学長ら学園、工事関係者らが神前に玉串を捧げて工事の安全を祈願しました。建物完成は来春の予定。

元工学部教授らに名誉教授授与

学園は6月21日、今年3月末までに退職した元工学部教授の内田悦行氏、大根義男氏、森野奎二氏、比嘉俊太郎氏と元基礎教育センター教授荒木淳氏の5氏に、名誉教授の称号を授与しました。（右写真前列の辞令書を持つ皆さんが名誉教授）

内田氏は1986年4月本学工学部助教授となり、翌年、教授に就任、計算センター長等を歴任し今年3月に定年退職。大根氏は1968年8月本学工学部教授となり、1999年に愛知工業専門学校（現都市デザインカレッジ愛知）校長を併任、総合技術研究所長等も務め、2004年3月に定年退職しました。森野氏は1969年4月本学工学部講師となり1987年教授、翌年大学院工学研究科教授も兼任、今年3月定年退職。比嘉氏は1970年4月本学工学部講師、助教授を経て1983年教授となり、この間、学生部長も兼任し2009年3月に定年退職。荒木氏は1968年4月本学教養部講師に就任し1987年教授、組織名称変更で基礎教育センター教授となり、学習支援センター長も務め、今年3月に定年退職しました。称号授与式は本部棟内で行われ、後藤淳理事長が内田氏ら5氏に名誉教授辞令書を授与し、理事長と後藤泰之学長が祝辞を述べました。記念の写真を撮った後、理事長、学長、学園、大学幹部を交えて歓談しました。



祝辞を述べる後藤淳理事長

励まし

東日本大震災被災者に義援金寄託



学園と愛知工業大学は六月三日、東日本大震災被災者に対する義援金を中日新聞社を中野新聞社に託しました。義援金は二百三十万円で、学園教職員か

ら寄せられた浄財二百万円と後援会の三十万円です。同日は後藤尚之学園事務局長・総務部長と岩井貞二総務部次長・総務課長の両氏が中日新聞社(名古屋市中区)内の社会事業団を訪ね、義援金を寄託しました。後藤学園事務局次長・総務部長が学園教職員の義援金Ⅱ写真右、岩井総務部次長・総務課長が後援会からの義援金Ⅱ写真左Ⅱをそれぞれ深見豪社会事業団事務局長に「被災者の皆様に役立ててください」と手渡しました。

愛工大生に後藤すゞ子先生奨学金



学園は五月三十一日、愛工大生に「後藤すゞ子先生奨学金」を交付しました。奨学金は元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づき、様々な事

情で学資負担困難になった学園各設置校の学生、生徒の学業継続を援助する目的で設けられています。交付式は八草キャンパス本部棟内で後藤泰之学長ら大学幹部も出席して行われ、後藤淳理事長が家族に労いの言葉をかけ、学生には「頑張っていて、家族を支えてください」と激励し、奨学金を交

平成23年度の新しい大学陣容決まる

総長	後藤 淳・理事長
学長	後藤 泰之・学長
副学長	稲垣 慎二・工学部教授
副学長	小嶋 憲三・工学部教授
工学部長	成田 国朝・工学部教授
経営学部長 経営情報科学部長	近藤 高司・経営学部教授
情報科学部長	末永 康仁・情報科学部教授
基礎教育センター長	柳井 裕道・基礎教育センター教授
工学研究科長	酒井 忠雄・工学部教授
経営情報科学研究科長	鈴木 達夫・経営学部教授
学生支援本部長	稲垣 慎二・工学部教授
教学センター長	山田 英介・工学部教授
教学センター副センター長	中村 栄治・情報科学部教授
キャリアセンター長	村瀬 洋・工学部教授
エクステンションセンター長	森 豪・基礎教育センター教授
学習支援センター長	安藤 光史・基礎教育センター教授
入試センター長	建部 謙治・工学部教授
入試センター副センター長	服部 洋兒・経営学部教授
図書館長	井 研治・工学部教授
計算センター長	飯吉 僚・工学部教授
総合技術研究所長	澤木 宜彦・工学部教授
高大連携推進室長 (名電含)	小嶋 憲三・工学部教授
国際交流室長	櫛田玄一郎・工学部教授
戦略的大学連携室長	曾我部博之・工学部教授



学園は四月一日付の組織変更と人事異動で、平成二十三年度の新しい大学の体制を決め、辞令を交付しました。今回の人事では、工学部長に成田教授、情報科学部長に末永教授、工学研究科長に酒井教授、経営情報科学研究科長に鈴木(達)教授、総合技術研究所長に澤木教授、高大連携推進室長

に小嶋教授が、それぞれ新しく就任しました。総長補佐、学長補佐は前年度と、変更ありませんでした。【写真は上段左から、成田工学部長、末永情報科学部長、酒井工学研究科長、下段左から鈴木(達)経営情報科学研究科長、澤木総合技術研究所長、小嶋高大連携推進室長】

光る研究成果への高い評価、ものづくりへの飽くなき取り組み

愛工大工学部応用化学科の山田英介教授が「日本接着学会」から学会最高の賞・『学会賞』を受賞、愛工大地域防災研究センターの入倉孝次郎客員教授が日本人で初めて米国地震学会等から『ブルース・A・ボルトメダル』を贈られました。さらに、工学部建築学科の神谷清仁教授が「空気調和・衛生工学会」から本学初である『SHASE技術フェロー』の称号を授与されました。工学部は、東海地区で初めてとなる3次元スキャナー等でデザインしたモノを実際に成形してしまう『高速・高精度3次元インテリジェント造形システム』を導入しました。学園、各設置校のこうした成果が、東海地区の産業界の高い評価や就職率に繋がっているといえます。

山田応用化学科教授に学会最高賞



山田英介応用化学科教授が6月17日、愛工大・八草キャンパスを会場に開かれた一般社団法人「日本接着学会」年次大会・総会で学会最高の賞にあたる「学会賞」を受賞しました。本学教員の学会賞受賞は初めてです。



学会賞は、支部推薦等を受け選考委員会が候補者の研究内容、論文を中心に学会への貢献、活躍等も審査し、毎年1人～2人にしか出さないという、学会最高の賞です。今回の受賞は、山田教授ら2人。教授の受賞対象は長年、研究している「ポリウレタンを用いた種々のコンポジットの構造と物性」で、湿気硬化接着剤やコーティング剤等と広く活用されているポリウレタンの構造と物性の関係の究明と、構造の制御法の開発などです。

6月17～18日の日程で開催された年次大会・総会は、昨年9月29日（接着の日）に学会が「一般社団法人」に衣替えて初めの大会で、学会賞も“新”学会の第1号といえます。授賞式は年次大会初日の17日、八草キャンパス・愛和会館で開かれた総会で、越智光一会長（関西大学教授）が、山田教授らに氏名を刻んだ「学会賞メダル」（写真左上）と受賞理由を明記した「賞記」を授与しました。引き続き、山田教授ら2人の受賞者が今回の受賞となった研究内容等の記念講演を行い、出席者から大きな拍手を受けました。

入倉客員教授にボルトメダル



地震学者で地域防災研究センターの入倉孝次郎客員教授が4月、米国地震学会・米国地震工学会・コスモス（米国強震動委員会）から日本人で初めてとなる「ブルース・A・ボルトメダル」（写真右上）

を贈られました。米国地震学会等は、応用地震学の創始者で米国・カリフォルニア大学バークレー校教授だったブルース・A・ボルト氏（故人）の長年にわたる地震研究の功績にちなみ一昨年、「ブルース・A・ボルトメダル」を創設、各地震研究の分野で優れた業績を挙げた地震研究者に贈呈しています。今回、将来の大地震の揺れを予測する「強震動予測レシピ」を考案し地震研究で知られる入倉客員教授に同メダルの授与を決めました。授賞式は4月13日、米国・テネシー州メンフィス市で開催された米国地震学会の席上で行われ、クリスタ・フォン・ヒルブラント・アンドラーデ会長からメダルを贈られました。入倉客員教授はスピーチで「東日本大震災に係わる全ての人への励ましとして受け取ります」と述べ、感銘を与えました。

神谷建築学科教授にSHASE技術フェロー



「SHASE技術フェロー」認定証を持つ神谷教授

神谷清仁教授が5月、社団法人「空気調和・衛生工学会」（会長・坂本雄三東京大大学院教授）から、本学初となる「SHASE技術フェロー」の称号を授与されました。学会は空調、給排水の建設設備関係等の研究者、企業で構成。2003年に学会活動の活性化、関連工業の発展等を目的に「SHASE技術フェロー制度」を設け、高度な技術を有し、空気調和・衛生工学関連分野の技術向上、設備技術者育成に多大な貢献をしてきた会員歴15年以上の正会員の中から選考、称号を授与しています。神谷教授は、4月の学会理事会で「平成22年度SHASE技術フェロー」に認定され、5月の中部支部通常総会で同称号を授与されました。教授は、建築環境工学、建築設備が専門分野で、その中でも建築内装材料の熱・湿気性能を主な研究課題にしています。

高速・高精度3次元インテリジェント造形システム構成図



東海地区初の最新鋭装置導入

工学部は、先端的製品開発で今後不可欠となる「高速・高精度3次元インテリジェント造形システム」を東海地区で初めて導入しました。同システムは▽3次元造形装置▽3次元モデラー装置▽3次元スキャナー装置の機器で構成。各装置の特徴は以下の通りです。

【3次元造形装置】 3次元CAD、3次元モデラー、3次元スキャナー各装置からのデータをインクジェットプリンターの原理を応用して、複数のノズルから樹脂とゴムを噴射、重ね合わせて3次元形状モデルを高精度に短時間で製作。また、従来装置と比べ複数部品を一度のプロセスで短時間に一体成型できるうえ、部分的に材質、硬さを変えられ、色づけも可能。

【3次元モデラー装置】 ディスプレイ上で力感覚を体感できるスティックにより、彫刻刀で削ったり、粘土を盛り上げるようなバーチャル加工が可能。

【3次元スキャナー装置】 実物をレーザーにより高精度に測定しデジタルデータ化可。

工学部機械学科は、グローバル化の進展で、先端技術の革新と発展の中で日本の「ものづくり」の優位性を将来にわたり維持するために欠かせないシステムとして着目。今回、簡易な操作かつメンテナンスで取り扱える装置が開発されたため、文部科学省の平成22年度私立大学等研究設備整備等補助金を得て、導入。愛工大では、工学部を中心に情報科学部等を含む全学的共用システムとして、東海地区の中心的工学技術の航空機、自動車等の工業製品開発、人間の感性に訴えるデザインの創作、教育に貢献。また、オープンキャンパスなどを通して将来を担う子どもらに「ものづくり」への興味の喚起など、社会全体への貢献も目的として、活用していきます。



ロボカップ世界大会出場の杉浦リーダー（右端）らメンバー

生徒は、情報デザイン部員でつくる「Chitose」のメンバー、杉浦光君（リーダー）、村木雅人君（以上科学技術科三年、北川裕介君、富田亮君、鷹見峻希君）以上情報科学科三年。今年二月、英文での論文審査にパスし、京都大学等の大学三チームとともに



世界大会出場へ
愛工大名電高校生が
七月五日（
トルコ・イスタンブールで開催された「ロボカップ2011」の大学生・研究者対象のロボカッププレスキュー実機リーグに日本の高校生として初めて参加しました。

愛工大名電高校生、世界の大学生、研究者と競う

選ばれました。製作したロボット（縦、横、高さとも約五十センチ）は、装甲車型ラジコンを改良し、障害物も楽々と乗り越えられる無限軌道式の車輪、被災者を見つめる巻き取り式メジャーを使った伸び縮みできるアームなど、高校生らしいアイデアにあふれています。大会では、本校を含む世界から合わせて二十五チームが出場。本校チームは、初出場ながら日本勢として最高の十一位と奮戦しました。杉浦君ら出場メンバーは七月十八日、高校校長室で後藤淳理事長から学園表彰を受けました。



上はロボットの調整に余年のないメンバー。右は大会で奮戦するロボット＝イスタンブールで



学園は4月1日付で組織変更と人事異動を実施、また、平成22年度決算概要を公表しました。

平成23年4月1日付の組織変更と人事異動

◇人事関係（敬称略）

◆組織変更（4月1日実施）

<基本方針>

(1) 大学事務組織の円滑な業務実施のため、大学事務局に学務部を設けて強化を図る (2) 学園創立100周年を来年に控え、百周年事業準備室の強化を図る (3) 図書館業務の段階的な外部委託に伴う人事異動を図る (4) 個人の適正、能力、キャリア、年齢などを考慮した適切な人事配置及び次年度体制に向けてのソフトランディングを図る。

<組織変更>

【事務局】

①総務部秘書室を事務局の直轄とする②総務部学園企画推進室を事務局の直轄とする。

【大学事務局】

①事務局の下に学務部を設け、その下に庶務課（学務課改称）、助成課、工学系事務室、経営学系事務センター、情報科学系事務室、基礎教育センター事務室を置く②大学入試センターの入試課と渉外課を統合し、入試広報課とする③研究支援本部の廃止に伴い、研究支援事務室は廃止する。総合技術研究所事務室が各付置施設（総合技術研究所・耐震実験センター・地域防災研究センター・エコ電力研究センター）業務を担当する。

◆人事異動（4月1日付、退職・兼務解除は3月31日付）

（カッコ内は前職、「・」は兼務、組織名称の変更者、及び敬称は省略）

<任命>（継続・再任を除く）

（大学）

工学部長 工学部都市環境学科教授・成田国朝▽情報科学部長 情報科学部情報科学科教授・末永康仁
▽大学院工学研究科長 工学部応用化学科教授・酒井忠雄▽大学院経営情報科学研究科長 経営学部経営
学科教授・鈴木達夫▽入試センター副センター長 経営学部経営学科教授・服部洋児▽総合技術研究所
長 工学部電気学科教授・澤木宜彦▽高大連携推進室長 工学部電気学科教授・小嶋憲三▽工学部機械学
科特任教授（教授） 架谷昌信▽工学部機械学科特任教授（教授） 安田仁彦▽工学部都市環境学科特任
教授（教授） 八木明彦▽経営学部経営学科特任教授（教授） 野村健太郎

（専門学校）

校長 大学工学部電気学科教授・井研治

（高校）

主事（教諭） 粥川桂司

<新規採用>

（大学）

工学部電気学科教授 箕輪昌幸▽工学部都市環境学科教授 吳承寧▽情報科学部情報科学科教授 水野
忠則▽経営学部経営学科教授 田村隆善▽工学部応用化学科准教授 西村聡子▽工学部電気学科講師 五
島敬史郎▽工学部建築学科講師 佐野泰之▽情報科学部情報科学科講師 澤野弘明

（高校）

教諭（常勤講師） 浅野孝太郎▽教諭・中学教諭（常勤講師） 藤澤和子▽教諭（常勤講師） 森啓樹
▽教諭 上島昌之▽教諭 小池弘見▽教諭・中学教諭 武野直紀▽教諭 坂倉富行▽教諭 小川喜信▽教
諭 細野耕司

（中学）

教諭・高校教諭（常勤講師） 柴田暁文▽教諭・高校教諭（常勤講師） 荒川洋史

（事務局）

総務部総務課事務職員 濱田俊輔▽総務部警備課長 河村勝正▽管理部管財課技術職員（嘱託技術職員）
林明宏

（大学事務局）

教学センター学生課係長 芦沢宜博▽エクステンションセンター課長 佐藤正治▽工学部建築学科技術
職員 近藤信彦

（若水事務局）

事務長 長谷川千代松

（専門学校事務局）

事務局参事 酒井保

<出向受入>

（大学）

工学部機械学科教授 藤村俊夫

(事務局)

管理部管財課参事 相原隆

<新規委嘱>**(大学)**

工学部都市環境学科客員教授 伊藤達雄▽工学部都市環境学科客員教授(特任教授) 大根義男▽工学部都市環境学科客員教授 金井道夫▽工学部応用化学学科客員教授 丹羽幹▽総合技術研究所客員教授 末松良一▽情報科学部情報科学科客員教授(教授) 阿部圭一▽経営学部経営学科客員教授(教授) 大野勝久▽基礎教育センター客員教授 松本伊瑛子▽大学院工学研究科連携客員教授 鷹取一雅▽大学院工学研究科連携客員教授 田澤真人▽地域防災研究センター客員講師 倉橋奨▽工学部機械学科任期付助手 武田亘平▽総合技術研究所ポストドクトラル研究員 黄宏宇▽総合技術研究所ポストドクトラル研究員 本田銀熙▽地域防災研究センターポストドクトラル研究員 王欣

(事務局)

総務部警備課嘱託職員(警備課長) 深見憲治▽秘書室有期契約職員 若杉徳子▽財務部財務課有期契約職員 黒田左知子

(大学事務局)

▽教学センター教務課有期契約職員 杉原真奈美▽教学センター教務課有期契約職員 内藤昌恵▽教学センター学生課有期契約職員 澤田尚江▽キャリアセンター有期契約職員 宮崎貴子▽エクステンションセンター有期契約職員 玉本尚子

(若水事務局)

事務局有期契約職員 仲田美佐子▽事務局有期契約職員 小嵐みどり

<昇格>(所属変更及び兼務、兼務解除を含む)

(大学)

工学部電気学科教授(准教授) 鳥井昭宏▽工学部電気学科准教授(講師) 中野寛之▽情報科学部情報科学科講師(助教) 松河剛司▽基礎教育センター講師(助教) 一刀祐一

(専門学校)

教授(助教授) 村瀬正敬▽教授(助教授) 河合忍

(事務局)

事務局次長・学務部長・事務局学園企画推進室長(大学事務局次長・事務局総務部学園企画推進室長、大学事務局入試センター次長兼務解除) 鈴木康▽総務部次長・総務課長(事務局総務部総務課長) 岩井貞二▽財務部次長・学園企画推進室員(事務局財務部財務課長) 伊藤忍▽総務部人事課長・事務局学園企画推進室員(人事課主査) 林敬二郎▽財務部財務課長(主査) 松井俊浩▽総務部総務課主査(係長) 宮島宝七子▽総務部人事課係長(事務主任) 後藤珠水▽総務部広報課係長(事務主任) 中條伸子▽管理部調達課事務主任(事務職員) 出川可奈▽管理部管財課事務主任(事務職員) 栗山里夏▽管理部管財課事務主任(事務職員) 葛谷新一郎

(大学事務局)

キャリアセンター主査(事務局総務部広報課係長、大学事務局入試センター渉外課係長兼務解除) 大茂真▽図書課係長(事務主任) 足立由美子▽入試センター入試広報課事務主任(事務局総務部学務課事務職員、学園企画推進室事務職員兼務解除) 竹中雅哉▽図書課事務主任(事務職員) 篠原幸男

<職種変更>**(高校)**

教諭(若水事務局主査) 有田哲治

<所属変更>(職名変更及び兼務、兼務解除を含む)

(事務局)

学園百周年事業準備室参与(若水事務局事務長) 若杉和彦▽総務部総務課事務職員(大学事務局教学センター学生課事務職員) 鬼頭明

(大学事務局)

事務局参与・学務部経営学系事務センター事務長・八草キャンパス事務長(学生支援本部事務長・経営学系事務センター事務長・八草キャンパス事務長) 松沢勝義▽学務部助成課長・庶務課長・情報科学系事務室事務長(事務局総務部学務課長、助成課長・学園企画推進室課長兼務解除) 井沢清人▽学務部庶務課係長(キャリアセンター係長) 中嶋研索▽学務部庶務課事務職員・事務局学園企画推進室員(入試センター入試課事務職員・事務局総務部学園企画推進室事務職員) 石原弘士▽教学センター課長(情報科学系事務室事務長) 佐藤友泰▽入試センター入試広報課長(エクステンションセンター課長) 大元司▽入試センター入試広報課係長(入試センター渉外課係長) 上田英貴▽キャリアセンター課長(入試センター渉外課長、事務局総務部広報課長兼務解除) 後藤幸樹▽キャリアセンター係長(入試センター渉外課係長) 西裕之▽学務部情報科学系事務室主査(経営学系事務センター八草キャンパス事務室主査) 小島雅子▽学務部経営学系事務センター八草キャンパス事務室主査(図書課主査) 河野ひとみ▽学務部経営学系事務センター自由ヶ丘キャンパス事務室係長(情報科学系事務室係長) 工藤洋子▽学務部経営学系事務センター本山キャンパス事務室係長(事務局総務部総務課係長) 水谷亮介▽総合技術研究所事

エコ電力研究センター主査・工学系事務室主査（図書課主査） 重田百合子▽教学センター学生課・若水事務部（事務局総務部人事課兼大学事務局教学センター学生課） 幡垣加恵▽学務部情報科学系事務室嘱託職員（事務局総務部助成課嘱託職員） 川口朋代▽学務部基礎教育センター有期契約職員（図書課有期契約職員） 小椋万祐子

<兼務>

（事務局）

事務局長・大学事務局長（事務局長） 三輪博美▽事務局次長・総務部長・大学事務局次長・総務部広報課長（事務局次長・総務部長、総務部人事課長兼務解除） 後藤尚之▽総務部総務課主査・総務部広報課主査（総務部総務課主査、学園企画推進室兼務解除） 石川裕之

<兼務解除>

（組織変更により廃止された部署の兼務解除、任期付職務、本務と兼務の入替えによる兼務解除は省略）

（事務局）

システム管理部システム管理課課員の兼務を解く 事務局財務部会計課長・伊藤昌典▽事務局学務課事務職員の兼務を解く 大学事務局学務部助成課事務職員・浅井保貴▽事務局学務課事務職員の兼務を解く 大学事務局学務部助成課事務職員・塚本真弓

（大学事務局）

入試センター入試課長の兼務を解く 入試センター次長・市川繁富▽経営学系事務センター本山キャンパス事務室事務主任の兼務を解く 教学センター教務課事務主任・鈴木達宜

<職名変更>

（事務局）

秘書室長（総務部秘書室課長） 山田 行政

（大学事務局）

入試センター次長（入試センター参事） 西尾恭一郎

<退職>

（大学）

電気学科 内田悦行教授、堀田厚生教授、穂積直裕教授▽機械学科 架谷昌信教授、安田仁彦教授▽建築学科 小池幸男教授▽都市環境学科 八木明彦教授、大根義男特任教授、森野奎二特任教授▽基礎教育センター 荒木淳教授▽経営学科 野村健太郎教授、大野勝久教授▽情報科学科 阿部圭一教授▽大学院工学研究科 倉橋奨ポストドクトラル研究員、党紀ポストドクトラル研究員

（高校）

水野正一教諭、榎村和幸教諭、磯野孝子教諭、神谷淑子教諭、米倉逸克教諭

（事務局）

穴戸哲事務局次長、吉田達夫総務課運転手、黒田憲一管財課技術職員、深見憲治警備課長、齋藤舉周管財課参事、小野憲也教務課主査

（専門学校）

加藤眞澄事務部事務長

<委嘱終了>

（大学）

応用化学科 沢木泰彦客員教授▽建築学科 比嘉俊太郎客員教授▽経営学科 徳永豊客員教授▽基礎教育センター 谷江敦躬客員講師▽大学院工学研究科 神谷信雄連携客員教授、金平実連携客員教授▽機械学科 三好巧嘱託技術職員▽応用化学科 熊谷隆秀任期付助手

（高校）

橋本慎太郎常勤講師、柴田章宏常勤講師、清水隆博常勤講師

（専門学校）

白岩義夫校長

平成22年度退職者辞令交付式

3月30日、八草キャンパスの本部棟2階会議室で行われ、後藤淳理事長が退職者1人ひとりに辞令と記念品を手渡した後、退職者との思い出を語り、「来年学園は創立100周年を迎えますが、100年の歴史の中に皆さんの名前も刻まれ、残ります。いつまでもお元気でお過ごしください」とねぎらいの言葉をかけました。

退職者を代表し荒木淳教授が、「指導教員のころ、学生からクラスコンパやボウリング大会に良く誘われ楽しんだことが懐かしく思い出されます。学園のますますの発展と理事長先生ら皆様のご健康をお祈りしています」と謝辞を述べました。この後、記念の写真を撮り、和やかに歓談しました。



後藤淳理事長（前列右から4人目）、後藤泰之学長（同左端）ら学園、大学幹部と記念の写真を撮る退職者

【平成22年度決算の概要】

学校法人名古屋電気学園の平成22年度決算は5月26日の理事会と評議員会において決定、承認されました。その概要は、以下の通りです。

- ・「資金収支計算書（会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容と当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにしたもの）」の総額は、291億6千万円、「施設関係支出」には、大学1号館建設、大学3号館他校舎耐震化工事及び高校谷口寮・名電スポーツセンター建設に係る支出が含まれています。
- ・「消費収支計算書（会計年度の消費収入と消費支出の内容と両者の均衡状態を明らかにし、経営状況を表すもの）」における「帰属収入合計（授業料、入学検定料、補助金など法人の負債とならない収入）」は、115億5千万円、「基本金組入額合計（教育研究の充実のために取得した固

定資産の価格や将来の施設取得のための計画的な積立金など）」を「帰属収入合計」から差し引いた「消費収入の部合計」は、98億円となりました。「消費支出の部」は、110億8千万円であり、「当年度消費支出超過額（「消費収入の部合計」から「消費支出の部合計」を減算した結果）」は12億8千万円、「翌年度繰越消費支出超過額」は、18億7千万円となりました。

- ・「貸借対照表（年度末における資産、負債、基本金及び消費収支差額を把握し、財政状態を表すもの）」の「資産の部合計」は653億円、「負債の部合計」は、73億7千万円となりました。

詳しくは、名古屋電気学園ホームページ【名古屋電気学園 [学園の構成]-[法人情報]-[事業報告・財務状況]】をご覧ください。

資金収支計算書（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

（単位 千円）

収入の部		支出の部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	8,882,265	人件費支出	6,154,574
手数料収入	311,046	教育研究経費支出	2,537,812
寄付金収入	43,663	管理経費支出	614,740
補助金収入	1,848,642	借入金等利息支出	22,779
資産運用収入	111,244	借入金等返済支出	341,713
資産売却収入	200,432	施設関係支出	1,920,546
事業収入	85,356	設備関係支出	852,756
雑収入	240,107	資産運用支出	2,000,000
前受金収入	1,647,369	その他の支出	876,841
その他の収入	3,262,426	資金支出調整勘定	△ 393,499
資金収入調整勘定	△ 2,271,022	次年度繰越支払資金	14,229,278
前年度繰越支払資金	14,796,012		
収入の部合計	29,157,540	支出の部合計	29,157,540

消費収支計算書（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

（単位 千円）

消費収入の部		消費支出の部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金	8,882,265	人件費	6,175,508
手数料	311,046	教育研究経費	4,075,210
寄付金	67,907	管理経費	782,248
補助金	1,848,642	借入金等利息	22,779
資産運用収入	111,244	資産処分差額	20,483
資産売却差額	633		
事業収入	85,356	消費支出の部合計	11,076,228
雑収入	243,107	当年度消費支出超過額	1,277,766
帰属収入合計	11,550,200	前年度繰越消費支出超過額	590,460
基本金組入額合計	△ 1,751,738	翌年度繰越消費支出超過額	1,868,226
消費収入の部合計	9,798,462		

貸借対照表（平成23年3月31日）

（単位 千円）

資産の部		負債、基本金、消費収支差額の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	50,301,179	固定負債	4,778,543
流動資産	14,996,144	流動負債	2,591,641
		負債の部合計	7,370,184
		基本金の部合計	59,795,365
		消費収支差額の部合計	△ 1,868,226
資産の部合計	65,297,323	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	65,297,323

学園各設置校で入学式―新入学生を祝福―



愛工大

四月一日に八草キャンパス(豊田市)の鉦徳館で行われ、本年度の新入生は、学部千四百十九名、大学院百八名、編入学の五人。式典では、後藤泰之学長「写真右」が「本学は『創造と人間性』という教育テーマの下、教職員一同、皆さんを全力でサポートしていきます」と新入生に呼びかけました。続いて後藤淳理事長・総長が「本学の母体である名古屋電気学園は、来年、創立百周年を迎えます。共に百年の時を刻んでいく誇りと



新入生で埋まった会場の鉦徳館

自覚を持ち、悔いのない大学生生活を送ってください」と激励。最後に新入生を代表して木村敬一君(工学部電気学科)が「勉学に精進し、本学の学生であることに誇りに学生の本分を全うします」と宣誓しました。年々、入学式に出席する保護者が増え、この日も三階観覧席は保護者で埋まり、晴れやかな雰囲気にも包まれていました。

愛工大名電高校



四月六日に名古屋市の千種区にある同校・喬徳館で、大勢の保護者を迎えて行われました。新入生は普通科、情報科学科、科学技術科合わせて六百十九名。佐藤忍校長が「この喜びの日のこと、はつらつとした心の躍動を心のノートに刻みつけ、充実した日々を過ごしてください」と新入生を激励しました。写真右。後藤淳理事長は、東日本大震災被災地の子どもらに触

れ、「十分な教育を受けられない被災地のことを思いやり、教育を受けられる幸せを感じとって勉学、スポーツに励んでください」と話しました。新入生を代表し、洪城卓馬君が「校則を守り、勉学にクラブ活動に精一杯努力します」と宣誓し、式を終えました。

愛工大附属中学校

四月六日に喬徳館で開かれ、佐藤忍校長が新入生百二十一人を前に「皆さんが級友と楽しく学校生活を送り、学習や運動に励み、心と体をバランスよく鍛え一段と成長してくれることを期待しています」と式辞を述べ、後藤淳理事長が「東日本大震災という大変な災害のなか、将来の進む



大勢の保護者の見守る中、厳かに行われた愛工大名電高の入学式

愛工大情報電子専門学校



後藤淳理事長、後藤泰之学長も出席して行われた愛工大附中の入学式

四月八日に豊田市陣中町の同校で行われ、国歌斉唱の後、新しく校長に就任した井研治校長(愛工大工学部電気学科教授)が「皆さんが本校で学ぶ期間は長い人生で一瞬に過ぎないが、意義

べき道や助け合いの気持ちを考え、これからの中学生活を送ってください」と呼びかけました。新入生代表の美馬貴将君が「入学したことを誇りに勉学や運動に励み、友情を深め、夢を実現させるため日々努力し続けます」と宣誓しました。



5学科合わせ85人の新入生を迎えて行われた愛工大情報電子専門学校の入学式

深い青春や職業を決める重要な期間です。勉学はもちろぬ友人、先生らと語りコミュニケーション能力を高め、悔いのない学生生活を送ってください」と、初の式辞を述べ、新入生を歓迎しました。また、後藤淳理事長は「来年創立百周年を迎える学園の一員という誇りと自覚を持ち知識、技術を学び、実り豊かな学生生活を送ってください」と、祝福しました。市川直明君(高度情報処理学科)が、五学科合わせ八十五人の新入生を代表して、「本校の建学の精神をわきまえて学則を守り、勉学に励みます」と、誓いの言葉を述べました。

愛工大 中国・東南大学と学術交流協定等を締結



愛工大は六月十日に東南大(中国・南京市)と「学術交流協定」並びに「共同研究協定」を結びました。



後藤泰之学長を团长とする代表团(七人)が六月五日(十一日まで)訪中。十日に東南大四牌楼キャンパスで、「学術交流協定」等を締結しました。後藤泰之学長と易紅東南大学長が、それぞれ両協定書に署名した後、固く握手を交わし、締結を喜び合いました。

今回の両協定調印によって、両大間で教員の学術交流のほか、学生の相互交流などが期待されます。また、東南大での中国語短期語学研修制度についても意見交換が行われ、実施に向けて検

愛工大地域防災研究センター 大震災検証と巨大地震の防災等考える講座開講



毎回、大勢の受講者で埋まる講座会場

東北地方太平洋沖地震発生を受けて、その検証といつ起きても不思議でないと言われる

討することとなりました。同日夜には南京オリンピックスポートセンターで、東南大による歓迎宴がありました。易学長、劉京南副学長らも出席し、来年六月の東南大建学百周年、同十一月の学園創立百周年に向け、さらに両大の結び付きを深めました。

【写真は、学術交流協定書等に調印する後藤泰之学長(左)と易紅東南大学長(右)】

第3回 六月十六日、奥川雅之機械工学科准教授らによるレスキューロボット等の現状調査報告がありました。

第2回 六月八日、入倉孝次郎センター客員教授が「東海・東南海・南海地震に生かすにはどうすればよいか？」をテーマに緊急地震速報の高度化などを講演しました。



第1回講座で今回の地震分析、被災地の状況等を話す正木センター長

東海地震等への備えを考えると、五月七日の第一回講座を皮切りに本山キャンパス(名古屋市中区)で順次開催しています。正木和明地域防災研究センター長(都市環境学科教授)ら同センターの研究スタッフによる現地調査に基づく「東日本大震災緊急報告会」。地震のメカニズムや大震災による津浪、液状化等の被害、災害廃棄物処理等の状況について発表しました。

愛工大名電高一チャリティーコンサートで熱く演奏



吹奏楽部は6月16日、名古屋市内で開かれた「東日本大震災復興支援チャリティーコンサート 2011 in 名古屋」(愛知県、名古屋市主催)に、女性歌手やジャズボーカルグループらと共に出演。

第1部のオープニングから舞台上がり、顧問の伊藤宏樹教諭の指揮で「オリンピック・センテニアル・セレブレーション」など3曲を、「被災者の皆さん、頑張ってください」とばかりに熱演=写真。途中、部員の踊りも加わって演奏を盛り上げ、1曲終えるごとに大きな拍手に包まれていました。

愛工大情報電子専門学校一球技大会に若さ爆発

今回で21回目となる学生会主催恒例の球技大会が6月17日、豊田市のスカイホール豊田で行われました。市川恭平学生会会長(情報工学科2年)が、「日ごろのストレスを発散し、スポーツを楽しもう」と学生に呼びかけ、スタート。参加した学生約170人はクラス毎のチームに分かれ、バレーボールなど5種目で熱戦を繰り上げました。バスケットボールでは、学生らが激しくボールを奪い合うなど若い力をぶつけ合い=写真、フットサルでもコート狭しと走り回り、学生は心地よい汗を流していました。総合優勝に輝いたのは、電子制御学科2年でした。





愛工大陸上競技部
三年ぶり全日本大学
駅伝出場切符手に

六月二十八日、瑞穂公園陸上競技場（名古屋市中）で行われた「秩父宮賜杯第43回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会」で三年ぶりに優勝、十五回目の大会出場切符を手にした。

クラブ・同好会の活躍

選考会は各チーム八人の選手が四組に分かれ各一方を走り、合計タイムで競い合います。愛知、岐阜、三重、静岡の四県から十一大学が会場。本学チームは最終四組で主将の長坂公靖選手が二位以下を大きく引き離しゴールインするなど



優勝メンバー（前列右から2人目が長坂選手）

し合計タイム4時間17分23秒48で優勝に輝きました。全日本大学駅伝は十一月六日、名古屋市・熱田神宮―三重県伊勢市・伊勢神宮（8区間、106・8キロ）で行われ、本学を含む全国の強豪二十六チームが出場予定です。

愛工大卓球部―東海学生選手権大会で男女ともダブルス優勝―

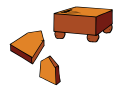
「平成23年度東海学生卓球選手権大会」（東海学生卓球連盟主催）が5月28日、6月4日、名古屋市守山スポーツセンター等で行われました。男子ダブルスで森本耕平選手・北村祐馬選手（経営学科2年）ペアが2年連続2回目、女子ダブルスでも澤畑奈津美選手（同4年）・高木瞳選手（同3年）ペアが初優勝に輝きました。男子シングルスでは、森本選手が同部の和田圭輔選手（同4年）を4-2の接戦で破り、2年連続2回目の優勝を手に入れました。

森本選手、前期日本卓球リーグ 東京大会で「優秀選手賞」受賞

男子チームは6月22～26日、東京・墨田区総合体育館で行われた「平成23年度前期日本卓球リーグ 東京大会」男子の部に出場。結果は1勝6敗で6位でしたが、森本選手が5勝1敗の個人成績で、「優秀選手賞」に選ばれました。本大会前の6月11日、八草キャンパス・紳徳館で前年度後期リーグ札幌大会優勝の東京アート（株）チームを迎えて、「平成23年度前期日本卓球リーグ・ホームマッチ」男子の部を行いました。ダブルスで森本・北村ペアが1勝を挙げましたが、シングルスを取れず1-3で敗れました。会場には大勢の観客が詰めかけ盛り上がりしました。



強豪の東京アート（株）チームを迎えて行われたホームマッチ・ダブルスに北村選手とペアを組み出場、1勝を挙げた森本選手（右から2人目）



愛工大名電高将棋部
―強豪東海高破り8
月の全国大会出場―



五月三日、名古屋市内で行われた「第47回愛知県高校将棋選手権大会」団体男子の部で、また、四日の同個人戦女子の部でそれぞれ優勝し、八月三日に福島県で開催される全国大会出場を果たしました。

団体男子の部には、服部卓也君、國分雄太君（普通科三年）、久野晃弘君（同一年）が出場。写真右から二、予選リーグで瑞穂高など三校を全勝で破り決勝トーナメントに進出。準決勝で明和高校を3-0、続く決勝で強豪の東海高と対戦し3-0で下し、全国大会出場を手に入れました。個人女子の部には、将棋部ただ一人の女子部員、水野翠さん（普通科一年）が

出場二回。決勝リーグで6戦全勝の成績を収めて、全国大会出場を決めました。



愛工大附中ロボット部
―「世界ロボカップ大会」で準優勝に輝く―

加藤拓君（三年）と三村柚貴君（一年）が、「世界ロボカップ大会」（七月六日～十一日、トルコ・イスタンブール）に出場。レスキューチャレンジAプライマリに出場した三村君は他の出場者と組んで競うチームで準優勝、個人でも三位に輝きました。準優勝は昨年のシンガポール大会に続く快挙。七月十八日、校長室で後藤淳理事長から学園表彰を受けました。大会に出したロボットを前に「さらには上を目指して頑張ってください」と、激励を受けました。写真二回。写真上。



写真二回。写真上。

愛名会だより

平成二十三年度総会・講演会開催

学園の後援会組織・学校法人名古屋電気学園愛名会は五月十三日、名古屋市中区の名古屋東急ホテルで平成二十三年度総会・講演会を開きました。総会では神尾隆会長、名誉会長の後藤淳理事長の挨拶に続き、松原暁美事務局長が総会前の理事会で承認された平成二十三年度事業計画、予算等を報告しました。また、愛工大地域防災研究センター長の正木和明都市環境学科教授が戦略的連携と取り組んでいる「社会人防災マイスター養成講座」の概要、松室昭仁機械学科教授が東海地区で初の導入と



大勢の会員の出席を得て開かれた平成23年度愛名会総会・講演会

なる「3次元インテリジェント造形システム」について話しました。

講演会



岡本一雄・トヨタ自動車取締役副会長

真右IIが「次世代自動車の将来展望」と題し講演。車の活用等を含む未来のモビリティ社会をまず紹介した後、自動車の歴史をたどりつつ石油資源に対する不安や地球温暖化など自動車を取り巻く課題を説明。それを受けて自動車産業はハイブリッド車、電気自動車、それらを融合・進化させた自動車の開発へ進むと語り、さらにトヨタ自動車の将来展望についてデータ、写真を豊富に使い解説しました。

この後、会場をかえて学園設置校の愛工大等の就職担当教員らと交えた懇談会が開かれ、教員と各企業の会員が交流を深めました。



市道の愛称名に「愛工大通り」!

愛工大八草キャンパス近くを通る道路の中で、愛工大の「愛称」がつけられた道路があるのをご存じですか? その名前もズバリの「愛工大通り」です。

「愛工大通り」の愛称がついている道路は六年前、愛知万博会場の一つだった瀬戸会場(瀬戸市吉野、現瀬戸万博記念公園「愛・パーク」)前を通る市道吉野一八草線です。同線は、愛工大北門から瀬戸市方面へ抜ける延長五百メートルのかわいらしい道路。大学カラの真新しいプレートが立っていますので、見逃さないでください。



愛工大北門近くを通る「愛工大通り」の愛称がついている瀬戸市道吉野一八草線

八草の話題—「愛工大通り」お目見え、「交通安全呼びかけ」

教職員、学生協力交通安全呼びかけ



愛工大交通委員会は全国交通安全運動に合わせ、初の試みとして八草キャンパスで、学生に交通安全の呼びかけを行いました。「春の交通安全運動」初日の五月十一日朝、鳥井昭宏委員長(電気学科教授)ら教職員十四人が「交通安全」のタスキを

かけて「スピード注意」などのサイン板を手に、雨の中、正門、北門、学生駐車場に立ち、注意を促していましたII写真右。「夏の交通安全運動」初日の七月十一日は、交通委員に学生でつくる学生会執行委員も参加し、正門等で交通安全を呼びかけましたII写真上。



「夏の交通安全運動」初日の七月十一日は、交通委員に学生でつくる学生会執行委員も参加し、正門等で交通安全を呼びかけましたII写真上。

編集後記

地球温暖化等で年々、夏の気温が上昇しているような気がしてなりません▼六月末に関東地方の都市で過去最高の「四〇度」近い気温を記録▼「猛暑」という言葉が、当たり前の言葉になっていきます▼今夏はとりわけ、「東北地方太平洋沖地震」の津浪による福島第一原発事故等による電力不足で「節電」が叫ばれ、いつになく暑い夏です▼一日も早く、大被害を被った原発が正常化するよう祈るのみです▼来年は名古屋電気学園創立周年の節目となる年▼記念事業のメインの一つ「記念館」(仮称)の地鎮祭も行われ、建設の槌音が響き始めました▼その他の記念事業に係わる作業も各担当部署を中心に動き出しています▼猛暑で例年以上に、「熱中症」も多発していると聞きます▼日々の仕事はもちろん大事ですが、熱中症等で倒れては、肝心の仕事もストップしてしまいます▼自分の体力に過信せず、日ごろから健康管理に気をつけ、暑さを乗り切りましょう。(久)